

神楽坂における夜間景観に関する研究 —街路照度と心象評価を用いて—

正会員 ○小林 和佳奈\*

正会員 鈴木 俊治\*\*

夜間景観 街路照度 心象評価  
商店街 路地 街並み景観

1. 研究背景と目的

神楽坂は、通りごとに特徴が異なり様々な景観が見られる魅力的な地区である。これまで神楽坂では、夜間景観に関する定量的な研究は少ない。そこで本研究では、地点別の街路照度を明らかにするとともに、心象評価を行うことで、定量・定性の両面の観点から通りごとの夜間景観の特徴を明らかにし、神楽坂にふさわしい夜間景観について考察することを目的とする。

2. 対象地域の概要

神楽坂は明治後期に商店街や住宅地として急速に発展し、現在も花街由来の限界が残っていることが特徴である。

本研究では対象を神楽坂 1~5 丁目とし、中でも神楽坂の特徴がよく表れている5つの通りを調査の対象とした。



a. 神楽坂通り



b. 本多横丁



c. 小栗横丁



d. かくれんぼ横丁



e. 兵庫横丁

表1 各通りの概要

a. 神楽坂通り 1~5 丁目	老舗や物販店や飲食店、和雑貨など多様な店で賑わっている。対象の通り中で最も店舗数が多く、距離が長い。(以降「神楽坂通り」とする)
b. 本多横丁	飲食店を中心に 50 軒以上の店舗が立ち並ぶ横丁で、ビルの中に古い木造の店舗も残っている。
c. 小栗横丁	飲食店やバー、銭湯「熱海湯」などがある通りで、飲食店は通りの西側に多い。
d. かくれんぼ横丁	趣のある石畳の路地に昔ながらの美しい黒板塀が続き、往年の花街の風情が偲ばれる。
e. 兵庫横丁	石畳の路地に老舗の料亭がある、情緒あふれる路地である。

3. 街路照度調査

表2 街路照度計測調査

調査日	2023年8月17日、9月12日、9月14日、10月11日
調査地点	76地点(図1)、地点ごとの間隔は約20m
調査方法	サンワダイレクト照度計400-TST965を使用し、歩道(歩道がない場合は道路の中心)、地上1mの地点の高さの水平面照度を、1地点4回(立つ向きを90度ごと回転)計測し、4回の平均値を分析に使用



図1 街路照度計測地点

4. 街路照度調査結果

街路平均照度は神楽坂通りが最も高く、兵庫横丁が最も低かった。神楽坂通りは全体的に明るく、75lx以上の地点が8地点あった。小栗横丁はほとんどが5lx以上20lx未満の地点であった。かくれんぼ横丁や兵庫横丁は、0lx以上1lx未満の地点と、20lx以上75lx未満の地点が混在していることが明らかになった。

表3 街路照度調査結果 (単位:lx)

	神楽坂通り	本多横丁	小栗横丁	かくれんぼ横丁	兵庫横丁
平均照度	50.6	17.2	9.7	13.2	5.5
最大照度	289.7	43.1	22.9	34.0	20.9
最小照度	4.7	3.8	4.8	0.0	0.1

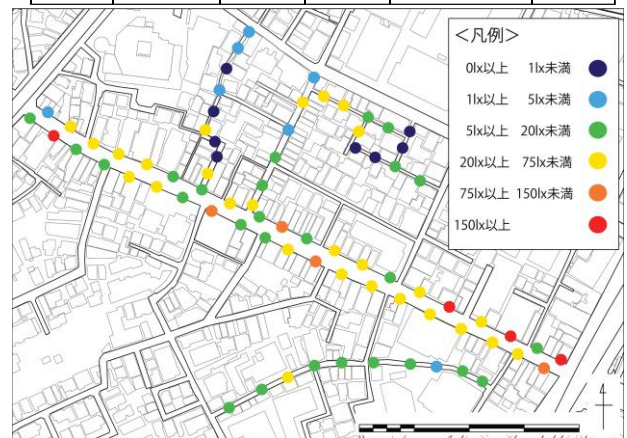


図2 街路照度分布図

A Study of the Night Streetscape in Kagurazaka  
- by Illuminance Level Measurement and Mental Evaluation -

KOBAYASHI Wakana\*  
SUZUKI Shunji\*\*

## 5. 心象評価調査

神楽坂の夜間景観に関し、歩行者が見て感じた特徴を把握することを目的とし、心象評価調査を行った。街路照度調査結果を用いて、各通りの最大・中央・最小照度地点を通りごとに計 15 地点を抽出して対象地点とし、各対象地点の写真を用いて評価を行った。

2024 年 1 月に実施し、学生及び教員、NPO 法人粋なまちづくり倶楽部関係者らに対して、Google Form にて行い、40 名から回答を得た。属性者の神楽坂への来訪頻度と評価項目は、以下の通りである。

表 4 神楽坂への来訪頻度

ほぼ毎日	18	来訪頻度[高]
月1~2回程度	1	
年数回程度	16	来訪頻度[低]
それ以下	5	

表 5 評価項目

問1	この場の明るさについてどう感じますか
問2	この場の明るさは通りの雰囲気に適合している
問3-1	この場の明るさや雰囲気に、「和風」を感じる
問3-2	問3-1でそのように感じた理由（記述）
問4-1	この場の明るさや雰囲気に、「にぎわい」を感じる
問4-2	問4-1でそのように感じた理由（記述）
問5-1	この場の明るさや雰囲気に、「落ち着き」を感じる
問5-2	問5-1でそのように感じた理由（記述）

## 6. 心象評価調査結果（一部概要）

問 1 について、神楽坂通りと兵庫横丁の結果を記す。神楽坂通りの最小照度地点は「やや暗い」と回答した人が 70%であった。一方、兵庫横丁では最大照度地点において「やや暗い・暗い」と回答した人が 77%であった。

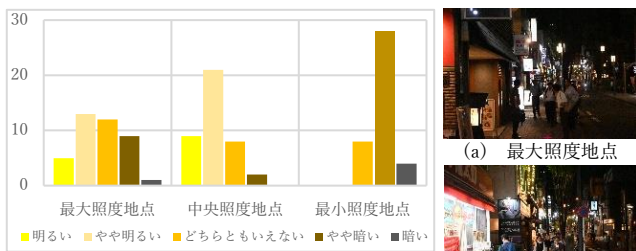


図 3 神楽坂通り(a)における照度ごとの比較結果(問1)

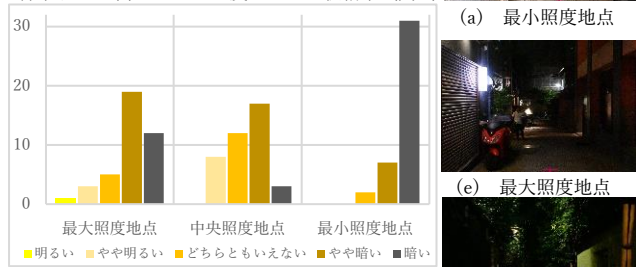


図 4 兵庫横丁(e)における照度ごとの比較結果(問1)

問 2 の回答は、神楽坂通りでは「そう思う・ややそう思う」の肯定的な意見と「あまりそう思わない・そう思わない」の否定的な意見の数が同じであった。その他の通りでは、肯定的な意見が全体の 52~67%と過半数を占

めた。来訪頻度による比較では、来訪頻度が高い人は肯定的な意見が 47~65%に対し、来訪頻度が低い人は肯定的な意見が 37~73%と回答にばらつきが見られた。また、来訪頻度が低い人はひとつの通りにおける評価にもばらつきが多かった。

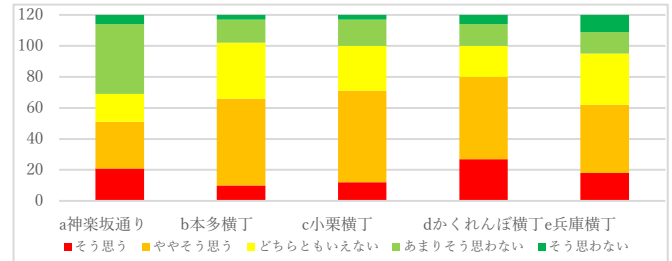


図 5 全回答者 通りごとの比較結果(問2)

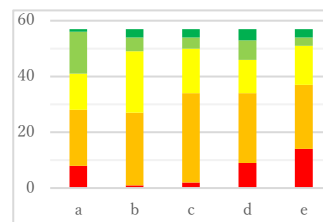


図 6 来訪頻度[高]

通りごとの比較結果(問2)

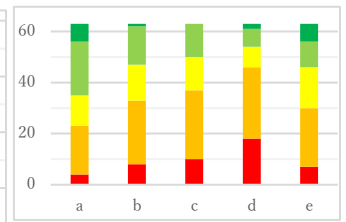


図 7 来訪頻度[低]

通りごとの比較結果(問2)

\* 図 6、7 の通り名・凡例は図 5 に準ずる

## 7. 考察と提案

今回の調査では、まず街路照度計測により、夜間照明による照度分布を可視化した。また、心象評価によりその場の照度が高くては明るく感じるとは限らず、その逆も同様であることが示された。

通りや地点によって街路照度は異なるが、問 2「雰囲気への適合」については、全体的には街路照度が低い通りが高い評価となり、街路は明るければよいのではなく通りにふさわしい照度があることが示された。

神楽坂への来訪頻度による心象評価の違いについて、来訪頻度が低い人の方が回答にばらつきが多かった。今回の心象評価調査は写真を用いて行ったため、現場での心象とは相違が生じ、現地をよく知る人とそうでない人では異なる結果になった可能性があり、実際との明るさや雰囲気の感じ方に違いがある。

今後は照明器具のサイズや色温度などを調査し、照度と関連づけて検討し、よりよい神楽坂の夜間景観をつくることが望ましい。

### 参考文献

- 1) 長谷川航介, 伊東佑真, 鈴木俊治: 東京・神楽坂における夜間一次景観の実態及び住民意識に関する調査研究 街路・路地における照明の形態と色調に関する研究(その1), 日本建築学会 2021 年度大会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 877-878, 2021
- 2) 伊東佑真, 長谷川航介, 鈴木俊治: 東京・神楽坂における夜間二次景観の実態及び住民意識に関する調査研究 街路・路地における照明の形態と色調に関する研究(その2), 日本建築学会 2021 年度大会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 879-880, 2021
- 3) 小嶋勝倫, 根上彰生, 中村寛代, 宇於崎勝也, 梶川和滋: 繁華地区における夜間の街路景観の整備に関する基礎的研究(その2), 日本建築学会 1988 年度大会学術講演梗概集, 都市計画, pp.139-140, 1988

\* JR 東日本ビルテック

\*\* 芝浦工業大学

\* JR East Facility Management

\*\* Shibaura Institute of Technology